

小規模特別養護老人ホーム 昴

ユニットケアを考える

発表者:小規模特養 昴
金子洋介

1 「昴」紹介

- 事業種別：地域密着型介護老人福祉施設
入所者生活介護（介護予防）
- 短期入所者生活介護（空床型）

小規模特別養護老人ホーム 昴



- 所在地: 中央区山ニツ531番地1
- 定員29名、ユニット型個室
- 1ユニット定員10名以下
- ユニット名 雪・月・花

2 ユニットケアとは

【基本方針】老人福祉法 第33条

- ・入居者1人1人の意思及び人格を尊重し・・・
- ・入居前の居宅における生活と入居後の生活が継続したものとなるよう配慮しながら・・・

* 方針＝目指すべき方向

【理念(目的)】

入居者1人1人の生活習慣や好みを尊重し、今までの生活が継続できるようにケアすること。

ユニットケアとは、理念(目的)を実践するための手法である→個別ケアの実践

《従来のケア》

- ・一斉一律のケア＝介護する側の都合に合わせて「日課」
- ・大食堂・大浴槽で一斉に食事、入浴介助体制
- ・分担作業→馴染みの関係がない
 - ・・・ex入浴介助 入浴係、着脱係、洗身係、誘導係などの複数の職員での分担・流れ作業

結果的に施設に、日課に入居者が合わせる
ことになってしまっていた・・・

《ユニットケア》

①少数ケア体制をつくる

- ・10人前後のグループを固定的に配置する
- ・1人1人の24時間・毎日の暮らし方を良く知る

* ユニットケアの最大の特徴...少数ケアのメリット

(単位が小さいと覚えられる情報量が多くなる)



1人1人を把握しやすい

なじみの関係をつくりやすい

②入居者が自分の住まいと思える環境をつくる

1、自分の居場所がある

2、暮らしに必要な場（キッチン、トイレ、浴室等）が身近にある

3、地域を感じる場がある

4、どの部屋も場所も家や地域の建物と変わらないことを大事にする



今までの暮らしを継続してもらうためには、なるべく今までと変わらない環境が必要

③今までの暮らしを続けてもらえるような暮らしをつくる

☆自分の暮らしは？

- ・好きな時間に寝起きをしたい
- ・好きな時間に飲み食いしたい
- ・好きな時間にゆっくりお風呂に入りたい
- ・トイレを恥ずかしい思いをせずに行きたい



では、施設ではどうでしょうか...

その人らしい生活をサポートする

④24時間の暮らしを保証する仕組みをつくる
どんな優れた職員でも、24時間365日連続
してケアはできない
介護職だけでもケアはできない



- チームでケアをする仕組み（システム）
が必要
- 他職種との連携・情報共有の仕組み
- 入居者の暮らしに合わせたケアの仕組み

3、地域密着型の特色とは

- これまで住み慣れた地域での生活を続けることができる。
- 規模も小さいため家族的で親密なサービスが期待できる。
- 事業所の所在する市や町の住民のみが入所の対象となる。
- 引越しや転勤などが非常に大きなストレスの原因になる。
- 住環境の変化が一変することで鬱症状などを引き起こす場合もある。
- 長い間同じ環境で暮らしてきた高齢者にとっては異なるコミュニティに突然身を置くことは非常に大きなストレスとなり、認知症などが重症化するきっかけとなる場合もある。

地域密着型の特別養護老人ホームはこうした問題を多少なりとも緩和できる施設だと考えられる。

4、現状・課題

- 施設開設してから1カ月が経ちますが、思った以上に新しい環境に馴染むまでに時間がかかっている状況だと思われれます。
- 新しい環境のなか、心身ともにストレスが溜まっており、入居者同士の関係が落ち着いて過ごせていないように感じます。
- ユニット単位の勤務につき、施設全体がうまく回っていないところがあります。施設全体を把握すること、ユニット間の協力体制を今後整えていかなければなりません。

5、今後の展望

- ・地域との連携(ご近所付き合い)・・・地域の中の家として回覧板が回ってくるような関係作り。
- ・地域活動への参加・・・やまがた地区及び山ニツ地区の行事(祭りや清掃活動など)に参加し、施設側から地域に寄り添う。
- ・ボランティアの受け入れ・・・近隣の保育園・小学校・中学校などからのボランティアや生涯学習などを働きかけ、出入りのしやすい環境づくりをおこなう。
- ・防災関係・・・施設の防災訓練なども地域と協力し、地域ぐるみで防災協力体制を築いていく。

6、最後に

「ユニットケアは入口であって、出口ではない」

武田和典氏(ユニットケア創設者)

ご静聴ありがとうございました。

